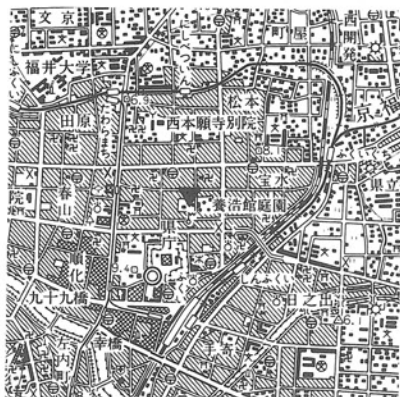


福井・福井城跡 (1)



(福井)

- 1 所在地 福井市宝永三丁目
- 2 調査期間 一 一九九九年(平11) 四月～七月
二 一九九九年四月～二〇〇〇年三月(一九九九年調査、継続中)
- 3 発掘機関 福井市教育委員会
- 4 調査担当者 一 三澤繁忠・天谷賢一・田中伸卓・免美智代
二 長谷川健一・天谷賢一・田中伸卓
- 5 遺跡の種類 近世城郭跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
調査地一・二ともに福井城跡の北の外曲輪に位置し、両調査地点は東西方向で約一二〇m離れている。
調査地一は、名勝養浩館庭園の入口に面した市道における、電線地中化に伴う

調査である。この庭園は福井藩主松平家の別邸、御泉水屋敷の跡を復原整備したものである。

庭園は過去の発掘調査の結果から、現在の敷地より広がったことが判っており、調査地一も敷地内にあたる。調査では庭園の続きのほかに、外堀跡、導水用木樋などを検出している。

木簡(1)は、二区遺構四という江戸時代初頭の溝から出土した。

調査地二は、本誌第二二号で報告した調査地二の継続調査である。一九九九年出土の木簡は、調査地南側に位置する武家屋敷内のゴミ穴から出土している。木簡(1)は、一七世紀中頃と想定するゴミ穴から、(3)は一七世紀後半、(2)は一八世紀後半の各ゴミ穴から出土した。この他に明治時代の木簡も三〇点ほど出土しており、福井県吉田郡から農産物を納めたことを示すものや、学年を記すものなどが見られる。これらは調査地が廃城後、松平家の管理地を経て、小学校として戦前まで利用されたことを示す資料と考えている。

8 木簡の釈文・内容

一 調査地一

(1) ・「く」納子入

・「く」高累郡出乙

(83)×22×4 039

上端左右に切り込みが入り、下部は欠損している。両面に墨書が認められるが、文意は不明である。

二 調査地一

S 四一 (コミ穴)

(1) 「○□可□右○」
[糖カ]

110×29×5 011

S 九一七 (コミ穴)

(2) □□□□□
[御カ]

(73)×14×5 081

S 三三一一 (コミ穴)

(3) 「飾木三ツ□□
島中取ま志り出之」

263×58×4 051

(1)は方形を呈し、上下に方形の穴が穿たれている。(2)は上下ともに破損している。(3)は上端の左右を切欠き、下部は削って尖らせている。三点とも文意を解していない。

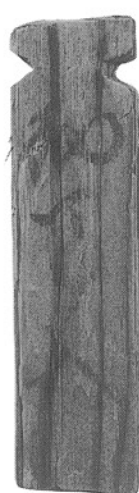
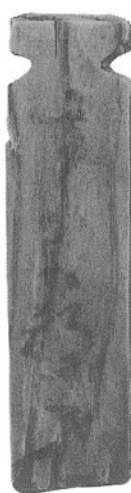
木簡の釈読については、福井市郷土歴史博物館の足立尚計氏のご協力をいただいた。また、調査地一に関しては三澤繁忠氏の、写真は天谷賢一、青木元邦両氏の協力を得ている。(長谷川健一)



二(3)



二(1)



一(1)